

2025 年度 輔仁大学日本語文学系国際シンポジウム

研究発表者募集

テーマ：「文化における不易流行」

趣旨：

これまで人間は、長い歴史を紡いできました。それは、決して平坦なものではなく、いくつもの曲折や変転を経てきたものです。そして現在、世界は、さらに流動性と不透明さを増しています。

こうした世界の変化は、私たちに何らかの対応を迫ってきます。例えば、AI技術との関わり方は、私たちが真剣に考えなければならない課題です。しかしだからといって、その時々の変化に逐一即座に応じようとしたり、流行に軽々しく飛びついたりすると、みずからの足元を見失うことになりかねません。また、変化がある一方で、その根底には、不変の事柄や守るべき伝統があるはずです。例えば、日本の伝統工芸に見られる精緻さは、これからも継承するべきものです。しかしだからといって、変化や多様性を排除して、一つの因習に固執してしまうと、みずからを孤立させることになりかねません。——松尾芭蕉の俳諧に由来する「不易流行」という概念は、伝統を守りつつも新規性を取り入れること、あるいは逆に、変化に応じつつも不変を保つことを意味します。しかしそこには、こうした逆説が潜んでいるのです。

本シンポジウムでは、逆説を孕んだこの概念を契機にして、文学にとどまらない、多様な分野の問題を考えてみたいと思います。——世界・社会の変化を、これまで文学はどのように描いてきたでしょうか。また、古典をとおして、現代社会を見ることはできるでしょうか。教育において、堅持すべきことと進取すべきことは、それぞれ何でしょうか。さらに、文化・芸術は、目に見えない社会の変化の兆候を察知することはできるでしょうか。

「不易流行」は本来、時間に着目して導かれた考え方です。しかし、この考え方は、時間のみならず、空間にも応用することができるでしょう。つまり、地域や分野によってどのような違いがあるのか、を問うとともに、地域間・分野間の違いを超えて変わらないものは何か、を問うことも求められるのです。例えば、日本語と中国語には、どのような共通点があるでしょうか。また、物理的あるいは心理的に離れている者どうしは、どのようにして繋がることができるでしょうか。

文学・文化・教育・語学に関わる諸問題を「不易流行」という観点をとおして考察し、意見を交換する場として、本シンポジウムを開催したいと考えています。みなさまの意欲的な論考をお待ちしております。

関係領域： 上記の趣旨に沿った日本文学、日本歴史文化、日本語学、日本語教育、翻訳に関わる
諸研究領域

主催： 輔仁大学日本語文学系

開催日時： 2025 年 11 月 15 日(土)

開催場所： 輔仁大学外語学院 徳芳大楼(新北市新莊区中正路 510 号)

発表方法：

(1)使用言語： 日本語

(2)発表時間： 口頭発表 20 分、質疑応答 5 分

(3) 申込方法: <https://reurl.cc/Y4Qbzo>

※上記 Google サイトに、ご記入の上、ご返送ください。

(4) 要旨の書式: 添付の[申し込み用紙](#)の書式に従って、ご記入ください。

(5) 発表論文(日本語・中国語の要旨)の投稿締め切り: 2025 年 3 月 8 日(土)

※申し込み用紙にご記入の上、指定のメールにご返送ください。

(6) 論文採用通知: 2025 年 5 月 9 日(金)

※結果は 5 月 9 日に本系の HP に掲載いたします。また、採用された方にはメールにてご連絡を申し上げます。その際に、書式規定についてもお知らせします。

(7) 発表論文の提出締め切り: 2025 年 10 月 15 日(水)

※発表論文(要旨を含む全文)は A4用紙 10 頁(40 字×36 行)以内。

電子メールにて提出してください。

(8) お問い合わせ先: 輔仁大學日本語文学科(新北市新莊區中正路 510 号)

※G24@mail.fju.edu.tw / 電話(02)2905-2596 傳真:(02)2905-2169 陳秋吟(碩士班 秘書)

(9) 内容によっては発表をお断りすることもありますので、ご了承下さい。

申込み用紙(申請單)

お名前(フリガナ)	
所属・職位	
E-mail	
電話	(O) (H) (携帯電話) (FAX)
住所 (連絡先)	
経歴	(一) 最高学歴 (二) 経歴
専門分野	
ここ五年間の 研究業績	
論文のタイトル	【日本語】: 【中国語】:
論文要旨 (日中各 500 字程度) キーワード5つ以内	【日本語】: 【中国語】: